

社会福祉法人ぶどうの木
2024年度事業報告書

(2024年4月1日～2025年3月31日)

I 概況

2024年度は、障害者差別解消法が改正され、行政機関だけではなく、事業者も「合理的配慮の提供」が義務化されました。また、読書バリアフリー法は施行から5年目となり、基本計画第一期の最終の年でした。このような状況のなかで、全国規模の協議会等を通して協議や普及啓発活動を行いました。またロゴスの業務としては、すでに定着したオンラインやハイブリッド形式による会議・勉強等と並行して、現地開催の大会・研修会等にも積極的に参加しました。他施設の職員と相談、情報共有することが増え、業務の方向性を確認しながら仕事を遂行することができました。

2024年度は、日本カトリック会館のリニューアル工事の計画が急ピッチで進められ、業者との打ち合わせにも参加しました。ロゴスに関わる場所では、録音室の移設が2025年度に行われることになり、録音室の情報収集、助成金の申請、機材の調達に奔走しました。また、リニューアルのタイミングで、職員が防火管理者の資格を取得し、施設管理の強化を図りました。

障害者基本法、著作権法、障害者差別解消法、読書バリアフリー法等に則りながら、またロゴスの環境に照らし合わせ、具体的に利用者への情報提供に取り組んだ1年間を、ここに報告します。

II 重点施策

1. 電子書籍（テキストデータ・テキストデイジー）製作の充実

テキストデータは、文字コードだけで構成されたデータで、視覚障害者等が音声読み上げソフトを用いてパソコン等で読み上げることができる、大切な情報源です。テキストデイジーとは、テキストデータを音声デイジー図書と同様に、デイジー形式で編集したものです。

2022年から取り組んできたこれらの製作事業は、ボランティアも定着し、技術のスキルアップを図ってきました。全国の利用者も使用できるようにするには、サピエ図書館の製作基準に合わせ製作し、技術審査に合格しなくてはなりません。2024年度は、それを目指してまいりましたが、無事合格することができました。サピエ図書館へテキストデイジーのコンテンツをアップロードし、ロゴスの利用者のみならず、全国の利用者へ提供が可能となりました。なお、コンテンツのアップロードが1年以上滞ると、再び審査を受けなければなりません。ボランティアと協力しながら、製作を継続していきたいと思います。

国立国会図書館障害者用資料検索サービス「みなサーチ」が提供しているテキストデータについては、職員が研修を受けるなど、理解を深めました。状況としては、国立国会図書館に登録した利用者が未校正のテキストデータをダウンロードして利用しており、ロゴスでも、みなサーチ利用への登録の仕方の対応や検索結果の情報提供が中心でした。今後、利用者からのニーズとも照らし合わせ、引き続き未校正のテキストデータの活用方法を探っていくと

ともに、「みなサーチ」の状況や国立国会図書館のサービスなどを把握するため、研修会に積極的に参加します。

2. 「ロゴスのほん箱」「通信あけのほし」テープ版のデジタル化

利用者への図書館だより「ロゴスのほん箱」、支援者へのニュースレター「通信あけのほし」は歴史あるロゴスの刊行物であり、大切な財産です。テープ音源しかない「ロゴスのほん箱」56号分、「通信あけのほし」84号分のデジタル化を、ボランティアの協力のもと、無事完了しました。

図書館における資料保存は蔵書の保存のみならず、その施設が製作したものならば、責任をもって保存しなければなりません。ロゴスの「文化」を大切に保管し、守っていきます。

3. 地域の類縁機関との協力体制の充実

2024年度は、ロゴスと同じ東京都江東区にある、深川江戸資料館から視覚障害者を対象にしたイベントの相談があり、広報先の紹介に加えて、資料館職員や説明ガイドボランティアに向けての接し方の研修を、当事者団体の江東区視覚障害者福祉協会に協力してもらいながら実施しました。資料館のご案内の仕方や時間配分なども一緒に考え、当日もスタッフとして参加しました。

また、地域との連携として、江東区民まつり、ボランティアまつり、江東区社会福祉協議会法人化60周年記念「感謝のつどい」に出展し、類縁機関のみならず、ボランティアグループや江東区の社会福祉施設の方々と交流することができました。

さらに江東区社会福祉協議会が担当する、小学校の福祉教室にも関わらせていただきました。

このような機会を通して、少しでも当館のことを知っていただけたと同時に、職員もさまざまな出会い、交流があり、視野を広げることができました。

Ⅲ 事業報告

1. 図書館サービス

2024年度の貸出実績は、点字図書が246タイトル（498冊）、CD図書が2,299タイトル（2,333枚）、テープ図書が45タイトル（248巻）でした。

2023年度、点字図書は225タイトル（511冊）、CD図書は2,208タイトル（2,279枚）、テープ図書50タイトル（350巻）でした。テープ図書以外は微増しております。サピエ図書館に登録している当館所蔵図書の年間ダウンロード数は、点字データが延べ利用者565人に対して218タイトル（724巻）、デジデータが延べ利用者10,514人に対して1,901タイトル（14,881時間25分）でした。相互貸借では、オンラインリクエストの受信が581回でした。ダウンロード、また郵送によって、全国の

方に利用されました。

利用者の希望図書を速やかに貸出し、レファレンスにも対応し、ご希望に沿った図書を提供しました。リクエストも随時受付け、ロゴスの方針に合った図書は製作し、プライベートサービスにおいても対応しました。

また、江東区障害者福祉センターが施設改修工事でロゴスのある潮見の仮施設へ一時移転しており、そこで活動している視覚障害者が、数名利用登録のため当館に来館されました。今後も連携を図り、より多くの方々に知っていただけるよう努力します。

2. 図書製作

点字図書の製作は、14タイトル(49冊)、デージー図書は37タイトル(37枚)でした。点字は、担当職員の休職もあり、2023年度の23タイトルを下回りました。2025年度は目標の25タイトルを目指し、課題解決の工夫をして少しでも多くの点字図書を利用者に提供できるよう努力します。

当館の蔵書方針に合っているもので、まだ製作のない希望図書は、蔵書として製作しました。方針に合わない図書製作についても、他の図書館の協力により、利用者のご希望に応えることができました。

プライベートサービスは、利用者の個人的なご希望の資料に応え、点訳は5件、音訳は2件速やかに製作しました。点字データの打ち出し、デージーデータのコピーにも対応し、利用者のお手元において楽しめるように提供しました。

3. ボランティア養成

点訳ボランティアに対しては、オンラインによる点訳校正勉強会を毎月開催しました。いつもは一人で点訳活動をしているため、この勉強会で、点訳についての疑問や質問を話し、同じ点訳ボランティアの仲間や職員と解決していける場となりました。なお、自動点訳ソフトを使用した点訳の習得を目指していましたが、点訳活動に余裕がなく、2024年度は習得までには至りませんでした。

音訳ボランティアに対しては、例年どおりオンライン、ハイブリッド、現地開催など、参加状況に応じて、音訳勉強会を11回、音訳校正勉強会を10回開催しました。音訳ボランティアの勉強会は、2023年度に再開された外部講師による読みのスキルアップの勉強会を2024年度も行い、音声訳技術の向上に力を入れました。また、音訳している蔵書の具体的な読み方の質問等を話し合い、ボランティアや職員と一緒に悩み、解決するようにしました。活動のモチベーションを保てるような勉強会となりました。

2024年度も、点訳・音訳合同勉強会を開催しました。ロゴスの利用者であり、公共図書館で働く職員でもある方から貴重な話を聞くことができ、視覚障害者の状況やボランティアの目的を改めて確認できた勉強会でした。

2024年度は、江東区の点訳グループと交流する機会があり、点訳のほか、イベントの点字体験のお手伝いなど、協力していただきました。

テキストデータ化・テキストデイジーのボランティアは、活動が充実し、サピエ図書館のテキストデイジーコンテンツアップの審査に合格、無事アップできることになりました。引き続き活動しやすい体制を整えてまいります。

4. 地域貢献（点字教室、ICTサポート）

見えない・見えにくい方のための点字教室を月2回、直接来館していただける方を対象に1人1コマ60分の単位で実施しました。自身も中途失明当事者である講師が、それぞれの希望、レベルに合わせマンツーマンで対応しました。また、点字に限らず日常生活の相談に乗るなど、受講者にとって頼りになる教室になっています。

ICTサポートでは、2024年度は国立国会図書館の障害者用資料検索サービス「みなサーチ」の問い合わせが多くあり、主に電話により国立国会図書館への登録の仕方、検索の仕方、ダウンロードの仕方等に対応しました。そのほかスマートフォンの操作やソフトの紹介等の相談にも応じました。また、ICTサポート以外の、旅行や外出の同行援護に関する悩み等、生活するうえでの相談にも対応しました。生活支援関係の情報や職員のサイトワールド（視覚障害に特化した、機器等紹介のイベント）への参加が役立ちました。

5. 行事

2024年度は、2021年度以来となる「ロゴスの文化教室」を12月7日（土）に日本カトリック会館のマレラホールで開催しました。初めて現地会場とオンラインのハイブリッド形式とし、遠方の方にもご参加いただきました。講演は日本カトリック神学院養成者、名古屋教区司祭の浅井太郎師にお願いし、「教皇フランシスコが求めることと『いのちへのまなざし』について」というテーマでご講演いただきました。講演は多くの利用者にも楽しんでいただけるよう、録音をもとにデイジー編集を行い、デイジー図書の所蔵としました。

2025年度以降に向けて、講演会「ロゴスの文化教室」のほか、引き続き行事を検討して参ります。

6. 定期刊行物・出版

支援者向けニュースレター「通信あけのほし」を年4回、利用者向け新刊図書案内「ロゴスのほん箱」は隔月で発行しました。また、「ロゴスのほん箱」でご紹介した蔵書を1年分まとめた「ロゴス点字図書館点字図書目録」「ロゴス点字図書館録音図書目録」を発行しました。点字版、デイジー版は、隔月発行の「ロゴスのほん箱」とともに、目録もサピエ図書館へコンテンツアップし、全国の利用者へ提供しました。

有料のものについては、カトリック教会のミサで用いる「聖書と典礼」の点字版を発行し

ました。「聖書と典礼」デイジー版は2024年度から無事発行を始め、カトリック教会15教区へ案内を送付し、発行の周知を図りました。

点字出版については、最新版の「点字技能検定試験の対策」を中心に出版し、大阪高松大司教区発行の「大阪高松教区報」等の受託製作をしました。また、過去の点字出版物の見直しを行い、蔵書への移行作業を進めました。

7. チャリティグッズを通した普及啓発の促進

2024年度は、ロゴスの70周年記念式典の際に製作し、ご出席された方にお渡ししたノベルティのトートバッグとクリアファイルが好評だったため、チャリティグッズとして紹介しました。イベントの参加が多かったこともあり、残部は完売しました。引き続き追加製作し、ロゴスの認知度向上、普及啓発に努めました。

8. 法人業務・会議体

2024年度は書面による決議も含め、理事会4回、評議員会2回を開催し、理事1名を選出しました。理事会での主な議題は、2023年度事業報告、2024年度補正予算、2025年度事業計画並びに予算等でした。評議員会では、理事の選任、決算等が審議され、全会一致で承認されました。

IV 統計データ

1. 貸出数

①資料の貸出

	点字図書		テープ図書		CD図書	
	タイトル数	冊数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
総貸出数	246	498	45	248	2,299	2,333
個人への貸出	47	171	5	29	437	439
他館への貸出	59	122	36	215	516	548
他館より借受貸出	140	205	4	4	1,346	1,346

②分類別貸出数

	点字図書		テープ図書		CD図書	
	タイトル数	冊数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
0 総 記	1	1	0	0	26	26
1 哲 学	114	284	8	21	475	503
2 歴 史	8	14	1	5	136	136
3 社会科学	37	73	3	12	145	145
4 自然科学	11	17	0	0	62	68
5 技 術	4	4	0	0	20	20
6 産 業	1	5	0	0	18	18
7 芸 術	4	7	0	0	246	246
8 言 語	2	6	0	0	2	2
9 文 学	25	43	32	207	1,021	1,021
J 児童図書	39	44	1	3	148	148
合 計	246	498	45	248	2,299	2,333

2. サピエ利用状況（当館製作データ）

1. 点字データ ダウンロード数

218タイトル 724巻 延べ利用者565人

2. デイジーデータ ダウンロード数

1,901タイトル 14,881時間25分 延べ利用者10,514人

3. デイジーデータ 再生数 956タイトル 644時間33分 延べ利用者2,698人

3. 蔵書数

	点字図書		テープ図書		CD図書	
	タイトル数	冊数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
総蔵書数	2,442	7,922	5,144	28,494	4,311	4,383
自館製作	1,826	5,814	4,697	26,160	2,903	2,913
他館製作	5	36	10	59	2	4
寄贈	365	1,293	431	2,180	1,399	1,437
購入	246	779	6	95	7	29

※今年度除籍数 点字図書 17 タイトル 57 巻

4. プライベートサービス

① 点訳 5件 824ページ

① 点字データ 打ち出しサービス 23件 5,580ページ

② 音訳 2件

③ デイジーデータ コピーサービス 12件 53タイトル